

令和6年度小山市民フォーラム 第3回おやま井戸端会議 意見(要約)

日時: 令和6年10月20日(日)15:00~17:00

会場: 小山市役所1階 多目的スペース

出席者: 参加者 15 名

参加者(市・運営委員含む)の意見(要約)

ゴミの減量化・リサイクルについて

- ・来年の4月からもやすしくないゴミに代わるが、ゴミの分別が複雑になると、高齢になるにつれて不安になる
- ・高齢になり、ゴミを処分することが難しくなる前に、不用品などの整理を市や外部組織に協力してほしい
- ・ゴミが集まった先で、さらに仕分けをしているということを知ってから、ゴミの分別を意識するようになった。ゴミを出した先の背景を教育として伝えることで、意識を変えるきっかけになるのではないと思う
- ・すべて燃やしてしまう地域もある中で、なぜゴミの分別をしなくてはならないのだろうか
→ゴミは燃やしたらそれで終わりだが、分別をすることでリサイクルすることができる。有限の資源を大切に使うために分別は必要である
- ・生ごみはどういった扱いになるのか(もやすしくないごみなのか、コンポストにいれるべきなのか)
- ・小山市では生ごみ処理機の補助があるので、それを活用して燃やしやすいゴミにいれるのがよいのではないかと
- ・処理機は電気のエネルギーを使っているのだから、エコロジカルではないのではないかと。生ごみは本来、土に返すのがエコだと思う
- ・石油製品を分別して回収しても、さらにリサイクルするにはエネルギーが必要ということを念頭に置いて、エコロジカルを意識してほしい
- ・紙のリサイクルが良いという意見が多いが、紙をつくるにもエネルギーは必要である
- ・ペットボトルをそのまま放置すればゴミになるが、リサイクルするとまたペットボトルとして使用できる
- ・子どもは3Rを知っているが、大人は知らない人が多い
- ・小山市の家庭ごみは増えている。まずは環境問題や3Rといった教育が大事だと思う

環境に配慮した農業

- ・農業は自然に良いというイメージがあるが、農業はプラスチックの資源を多く使っている
- ・食や農の土台となる土は、自分の命をはぐくみ、力になり、循環している。そういった自分の体を作っている根本を考えることで、人は環境に優しくなれるのではないと思う
- ・環境に配慮することも大事だが、高齢化で若い人が農業をやりたいがらない現状から、自給率の問題も考えて欲しい

平地林について

- ・平地林を守るためには農家の人口を増やす必要がある
- ・自然共生サイトの森を管理しているが、整備するうえで足りないのは人である。行政の補助も必要だが、市民の方にも、森に遊びにきて落ちている木を拾ったり、タケノコを掘ったりなど、多くの人が参

加してもらうことが平地林を守ることにつながる

- ・平地林を持っても、活用性がないとお金が出ていくばかり。どういう活用があるのか教えてほしい

生物多様性について

- ・クビアカツヤカミキリの対策はどうすればよいのか

→現状では駆除や木への注射、木の伐採しか対策がない。市ではクビアカツヤカミキリ防除奨励金を出しており、広報等で周知をしながら早めに駆除してもらえよう伝えている

- ・昔は、山をきれいにしていた動物と人間が共存できていたが、今はそれが崩れてきているので、動物が人間の生活に侵入してきている

その他

- ・環境問題は、子どもの教育から変えていく必要があり、将来の子どもたちに負の遺産を残してはならない

- ・小山市はオーガニックビレッジ宣言をしているが、有機米や有機野菜を給食にとりいれる方向性はどうか

→給食に取り入れるためには、有機農作物を作る農家とその需要を増やし、知ってもらう必要がある。そのために、小山市では有機野菜のアンテナショップを作っているが、量的にまだ対応できていない。有機農作物を増やしてくような取り組みを今後も続けていきたい

感想等

- ・農業などに関する経験は価値があるものだと思っている。こういう非日常なイベントをもっとひろげていければよいと思う

- ・貴重な話がたくさんあった。今回のイベントは小山市公式 LINE から知ったが、人口規模に対して登録者が少ないため、もったいないと感じる。使えるツールを活用してこういったイベントをもっと周知していった方がよいと思う

- ・初めて参加したが、いろいろな面で勉強になった

- ・意見交換はとても良いと思うが、それを聞いて市や県が動こうとする行動になればいいと思う